

平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年11月2日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント
コード番号 6425 URL <http://www.universal-777.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 富士本 淳

問合せ先責任者 (役職名) 取締役

(氏名) 麻野 憲志

四半期報告書提出予定日 平成24年11月2日

配当支払開始予定日

TEL 03-5530-3055

平成24年12月7日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	40,476	△3.2	14,500	△21.8	18,287	△17.2	12,539	△38.5
24年3月期第2四半期	41,804	263.8	18,548	—	22,086	—	20,405	—

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 14,433百万円 (△25.2%) 24年3月期第2四半期 19,287百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	169.78	—
24年3月期第2四半期	257.35	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	170,816	142,007	82.7
24年3月期	151,813	131,336	86.0

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 141,263百万円 24年3月期 130,505百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	70.00	—	30.00	100.00
25年3月期	—	30.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

当社は定款において期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では当該基準日における配当予想額は未定であります。

3. 平成25年 3月期の連結業績予想(平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	95,900	28.1	33,000	25.2	36,000	7.9	21,000	△33.1	284.33

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
新規 ― 社 （社名） 、 除外 ― 社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 有
- ② ①以外の会計方針の変更 ： 無
- ③ 会計上の見積りの変更 ： 有
- ④ 修正再表示 ： 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものです。詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	80,195,000 株	24年3月期	80,195,000 株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	6,811,154 株	24年3月期	5,886,054 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	73,859,034 株	24年3月期2Q	79,289,056 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続きは終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第 2 四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第 2 四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) 追加情報	11
(7) 重要な後発事象	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、米国における景気は緩やかに回復しているものの、雇用環境や住宅着工件数の改善の遅れなどにより、景気が下振れするリスクがあります。欧州における景気は、当面弱い動きとなることが予想されており、一部の国々における財政の先行きに対する根強い不安を背景とした金融面への影響により、景気が低迷するリスクがあります。また、中国においては景気の拡大テンポがやや鈍化しているものの、各種政策効果もあり、緩やかな拡大傾向となることが見込まれております。その他アジア地域においては、景気は足踏み状態となっております。

わが国の経済は、引き続き底堅さが見られるものの、世界景気の減速等を背景として、弱めの動きとなっております。企業収益は一部の業種で持ち直しているものの、頭打ち感がみられております。雇用情勢は依然として厳しさが残るものの、改善の動きがみられ、個人消費はおおむね横ばいとばっております。

そのような中、当社グループの主力事業であるパチスロ・パチンコ事業において、6月にパチスロ機『バジリスク〜甲賀忍法帖〜Ⅱ』を市場導入し、5万台を超える大ヒット機種となりました。また、8月にはパチスロ機『ドンちゃん祭』を市場導入し、9月にはパチスロ機『トロピカーナ』の市場導入を行っております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は40,476百万円（前年同期比 3.2%減）、営業利益は14,500百万円（前年同期比 21.8%減）となりました。

また、当社の持分法適用関連会社であるウィン・リゾーツ社（NASDAQ:WYNN）の2012年1月～6月までの少数株主利益控除後の四半期純利益は、278百万米ドルとなりました。このうち当社グループの持分相当額から同社による過去の自己株買いに伴い、当社が行うのれん償却額を差引き、持分法による投資利益として3,197百万円を計上しております。なお、当社は、ウィン・リゾーツ社と係争中ではありますが、P.11に記載のとおり、当第2四半期連結累計期間においても引き続き持分法を適用しております。

これらの結果、経常利益は18,287百万円（前年同期比 17.2%減）、四半期純利益は12,539百万円（前年同期比 38.5%減）となりました。

なお、事業セグメント別の業績は以下の通りであります。各業績数値はセグメント間売上高または振替高を調整前の金額で記載しております。

①パチスロ・パチンコ事業

当第2四半期連結累計期間においては、パチスロ機3タイトルを市場導入いたしました。

8月には、パチスロ機『ドンちゃん祭』の導入を行っております。当タイトルは、伝統と流行の融合で、常にパチスロシーンの最前線に立ち、時代時代のトレンドとなるシステムスペックで市場に挑んできた『HANABI』シリーズの最新作です。『ドンちゃん祭』は、「青ドン、赤ドン、緑ドン」のパチスロ市場で人気のドンちゃん3兄弟が5号機で初めて揃い踏みするお祭り仕様となっております。『ドンちゃん祭』はホール様や市場ユーザーからも高い評価を頂き、約36千台の導入となりました。

また9月には、パチスロ機『トロピカーナ』の市場導入を開始しております。当タイトルは、ART機でボーナスを再現し、誰もが安心して遊べる完全告知タイプの機械となっており、通常サイズのコインで遊技できるタイプと大型コイン（30パイコイン）で遊べるタイプの2種類を同時販売しており、現在約10千台の導入となっております。当タイトルにおいては、引き続き販売を継続しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のパチスロ機の導入台数は約96千台となり、パチスロ・パチンコ事業の売上高は39,030百万円（前年同期比 3.7%減）、営業利益は18,877百万円（前年同期比 13.4%減）となりました。

②その他

メディアコンテンツ事業においては、パチスロ機『ドンちゃん祭』の実機販売と連動して、フィーチャーフォン及びスマートフォン向けに、シミュレーターアプリをはじめとした各種コンテンツを配信しました。特にiTunes、moraにおいて「ドンちゃん祭サウンドトラック」を、新たにネット限定で配信する等、コンテンツの種類を拡大しています。

またiPhone、android向けに「緑ドン花火の起源探求の巻」を配信しました。いずれもランキング上位を維持しており、好評を得ております。

パチンコ・パチスロ専門チャンネル「パチンコ★パチスロTV！」を運営する日本アミューズメント放送株式会社では、第2四半期までの売上はスカパー！放送事業についてはスカパー！自体の大幅な全体加入件数減少の影響を受け前年度に比べ減少いたしました。しかしながら、サイマル放送事業では8月より、レオパレス21賃貸アパート専用ブロードバンド「LEONET」での配信が開始されたことや、ケーブルテレビ大手のJCNやひかりTV等の加入件数も伸びたことから、前年同期に比べ約64%増の売上となっております。インターネットやビデオ・オン・デマンドのコンテンツ配信事業においては新規サービスへの配信やスマートフォンなどへの既存サービス

の拡大を行い、前年同期に比べ約40%増の売上となっております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間におけるその他売上高は1,495百万円（前年同期比 3.3%増）、営業損失は630百万円（前年同期 営業損失5百万円）となりました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は84,876百万円となり、前連結会計年度末に比べ10,492百万円増加いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が3,987百万円増加したことによるものであります。固定資産は85,940百万円となり、前連結会計年度末に比べ8,511百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券が5,349百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、170,816百万円となり、前連結会計年度末に比べ、19,003百万円増加いたしました。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は24,219百万円となり、前連結会計年度末に比べ9,822百万円増加いたしました。これは主に短期借入金が2,066百万円、未払法人税等が4,475百万円増加したことによるものであります。固定負債は4,589百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,490百万円減少いたしました。これは主に社債が1,030百万円、長期借入金が468百万円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、28,809百万円となり、前連結会計年度末に比べ8,332百万円増加いたしました。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は142,007百万円となり、前連結会計年度末に比べ10,671百万円増加いたしました。これは主に四半期純利益12,539百万円及び剰余金の配当2,229百万円によるものであります。この結果、自己資本比率は82.7%（前連結会計年度末は86.0%）となりました。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

① パチスロ・パチンコ事業

第3四半期においては、パチスロ機大型タイトル『S L O T 牙狼』の販売活動を開始しており、本年12月に市場導入を行う予定となっております。

当タイトルの著作権「牙狼-G A R O -」は、雨宮慶太氏の原作による特撮テレビドラマで、ハイパーミッドナイトアクションホラードラマとして深夜放送され人気を博しました。また放送終了後も特別番組や劇場版、小説などが制作され幅広い層からの人気を獲得したコンテンツとなっております。

『S L O T 牙狼』は、そのコンテンツを起用したものです。当タイトルは、業界最大数となる4つの可動役物を搭載した黄金の筐体と、現在のパチスロ市場の主流となるA R T機能とボーナスを搭載した仕様となっており、今年末のパチスロ機最大注目機種として非常に多くのホール様から期待の声を頂いております。

② その他

メディアコンテンツ事業においては、今後もスマートフォン市場へ、パチスロシミュレーターをはじめとした各種コンテンツ配信を、あらゆるプラットフォーム向けに、より一層拡大してまいります。また、好調なパチスロ実機販売との連動をさらに高めるべく、ライセンス商品の拡充にも注力してまいります。10月3日にはドンちゃんシリーズの名曲から厳選した18曲を収録したベスト盤CD「ドンちゃんうたべすと」が発売されており、引き続きエンドユーザーの皆様に喜ばれる商品開発を行ってまいります。

日本最大のパチンコ・パチスロ専門チャンネル「パチンコ★パチスロTV!」を運営する日本アミューズメント放送株式会社では、今後はケーブルテレビ業界を視野に入れた放送事業の拡大、HD放送配信への切り替え、パチスロ・パチンコ市場全体の活性化を図るための新規スキームによる番組制作等を行っていきます。また、ユーザーニーズを踏まえた新番組も積極的に投入していく予定です。

また、当社グループがフィリピンの首都マニラで推進しているカジノリゾートプロジェクト『マニラベイリゾート』においては、随時工事を進めております。また、現地優良企業とパートナーとしての協力関係を構築するための交渉を行っております。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第 1 四半期連結会計期間より、平成24年 4 月 1 日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第 2 四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ37百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成24年 9 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	34,440	41,858
受取手形及び売掛金	3,595	7,582
有価証券	11,967	1,377
商品及び製品	785	695
仕掛品	2,734	3,634
原材料及び貯蔵品	17,241	21,333
繰延税金資産	1,182	871
その他	2,500	7,644
貸倒引当金	△63	△121
流動資産合計	74,384	84,876
固定資産		
有形固定資産		
土地	31,235	32,689
その他	14,477	16,214
有形固定資産合計	45,713	48,904
無形固定資産		
のれん	49	16
その他	284	362
無形固定資産合計	334	378
投資その他の資産		
投資有価証券	29,040	34,390
その他	4,408	4,333
貸倒引当金	△2,068	△2,065
投資その他の資産合計	31,380	36,657
固定資産合計	77,429	85,940
資産合計	151,813	170,816

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当第 2 四半期連結会計期間 (平成24年 9 月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,820	10,205
短期借入金	—	2,066
1年内返済予定の長期借入金	936	936
1年内償還予定の社債	2,060	2,060
未払法人税等	752	5,227
賞与引当金	189	198
その他	3,639	3,526
流動負債合計	14,397	24,219
固定負債		
社債	4,200	3,170
長期借入金	1,155	687
資産除去債務	183	184
その他	540	547
固定負債合計	6,079	4,589
負債合計	20,477	28,809
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	10,852	10,852
利益剰余金	164,036	174,347
自己株式	△12,763	△14,296
株主資本合計	162,223	171,000
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△16	△34
為替換算調整勘定	△31,701	△29,702
その他の包括利益累計額合計	△31,718	△29,736
新株予約権	22	22
少数株主持分	808	720
純資産合計	131,336	142,007
負債純資産合計	151,813	170,816

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第 2 四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)
売上高	41,804	40,476
売上原価	15,200	16,475
売上総利益	26,603	24,000
販売費及び一般管理費	8,055	9,500
営業利益	18,548	14,500
営業外収益		
受取利息	4	22
受取配当金	5	5
為替差益	—	463
持分法による投資利益	3,626	3,197
その他	44	153
営業外収益合計	3,680	3,844
営業外費用		
支払利息	50	44
為替差損	18	—
社債発行費	39	—
支払手数料	29	—
その他	5	12
営業外費用合計	143	56
経常利益	22,086	18,287
特別利益		
持分変動利益	374	140
その他	0	0
特別利益合計	375	140
特別損失		
投資有価証券評価損	—	55
訴訟和解金	5	36
その他	1	3
特別損失合計	7	95
税金等調整前四半期純利益	22,453	18,332
法人税、住民税及び事業税	2,229	5,569
法人税等還付税額	△78	—
法人税等調整額	△103	310
法人税等合計	2,048	5,880
少数株主損益調整前四半期純利益	20,405	12,452
少数株主損失 (△)	—	△87
四半期純利益	20,405	12,539

(四半期連結包括利益計算書)
(第 2 四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月 30 日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月 30 日)
少数株主損益調整前四半期純利益	20,405	12,452
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	△29
為替換算調整勘定	△1,122	1,990
持分法適用会社に対する持分相当額	0	19
その他の包括利益合計	△1,117	1,981
四半期包括利益	19,287	14,433
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,287	14,520
少数株主に係る四半期包括利益	—	△87

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	22,453	18,332
減価償却費	813	1,019
のれん償却額	33	33
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1	8
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△114	47
受取利息及び受取配当金	△9	△28
支払利息	50	42
為替差損益 (△は益)	△294	△728
持分法による投資損益 (△は益)	△3,626	△3,197
持分変動損益 (△は益)	△374	△140
売上債権の増減額 (△は増加)	△165	△3,892
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△102	△4,895
未収入金の増減額 (△は増加)	132	161
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	158	△5,334
破産更生債権等の増減額 (△は増加)	92	24
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,775	3,385
未払金の増減額 (△は減少)	264	459
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	584	△244
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△107	6
その他	86	△167
小計	22,652	4,890
利息及び配当金の受取額	8	28
持分法適用会社からの配当金の受取額	2,007	—
利息の支払額	△58	△51
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,437	△1,280
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,173	3,588
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,762	△2,518
有形固定資産の売却による収入	21	—
無形固定資産の取得による支出	△85	△209
投資有価証券の取得による支出	△2	△1,512
貸付けによる支出	—	△30
子会社株式の取得による支出	—	△15
敷金及び保証金の差入による支出	△151	△3
敷金及び保証金の回収による収入	0	53
その他	33	12
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,945	△4,222

(単位：百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,549	2,066
長期借入金の返済による支出	—	△468
社債の発行による収入	2,000	—
社債の償還による支出	△200	△1,030
自己株式の取得による支出	△0	△1,532
配当金の支払額	△2,378	△2,229
担保提供預金の増減額 (△は増加)	1,189	△1,939
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△940	△5,133
現金及び現金同等物に係る換算差額	△434	656
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	19,852	△5,111
現金及び現金同等物の期首残高	29,432	46,408
現金及び現金同等物の四半期末残高	49,285	41,296

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、当第2四半期連結会計期間において、平成24年6月28日開催の取締役会における自己株式の取得決議に基づき、自己株式の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結会計期間において自己株式が1,532百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が14,296百万円となっております。

(6) 追加情報

当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
(訴訟) Wynn Resorts, Limited (NASDAQ: WYNN、以下「ウィン・リゾーツ社」という)及び同社取締役会は、2012年2月18日、当社及び当社連結子会社であるAruze USA Inc. をウィン・リゾーツ社の株主として不適格であるとし、ウィン・リゾーツ社が、Aruze USA Inc. が保有するウィン・リゾーツ社株式(24,549,222株、発行済株式に対する持分割合: 19.66%)を同日のウィン・リゾーツ社株式時価の約30%の割引価格で10年満期の長期受取手形を対価として償還することを一方的に決定し、実行したと主張しております。また、ウィン・リゾーツ社は翌19日、当社及びAruze USA Inc. に対して、当社取締役会長岡田和生による忠実義務違反を幫助したことによる損害賠償及び上記株式償還の決定について宣言的救済を求めた訴訟を提起しております。 それを受け、当社及びAruze USA Inc. は、2012年3月12日に、ウィン・リゾーツ社への投資を保全するために必要な法的措置の一環として反訴を提起し、ウィン・リゾーツ社による不適切な株式償還に対する差止め命令及び裁判所の宣言的救済を求めるとともに、不適切な株式償還及び詐欺的行為に関与したスティーブ・ウィン氏、並びにウィン・リゾーツ社の執行役員及び各取締役に対し、損害賠償等を求めています。 当該反訴手続は、今後ディスカバリー及び証言録取等の証拠開示手続を経た後、トライアルにおいて証人尋問等を経て判決に至るという過程となるため、最終的な結論が出るまで相当期間がかかることが予想されます。従いまして、現時点では実体的判断の帰趨及び時期のいずれについても見通しがつかない状況であり、当社においては予測予断を持って判断を行わず、本反訴請求の結果事実の確定が成されれば、即時にそれに従って適正な処理と開示を行うことが妥当と判断しております。このため、本反訴請求の結果により発生する可能性のある当社及び連結子会社等からなる企業集団の特定期間の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に与える影響を確実に見積もることが困難である事実を踏まえ、ウィン・リゾーツ社株式に対しては従前の持分法による会計処理を引き続き踏襲しております。

(7) 重要な後発事象

1. 資金の借入及び担保提供

当社グループは、平成24年11月2日付で借入を実行し、その借入に際して下記資産を担保提供しております。

(1) 理由

短期運転資金の確保

(2) 借入先

DEUTSCHE BANK AG, HONG KONG BRANCH,

(3) 借入金額

50,000千US\$

(4) 借入期間

1年間

(5) 担保提供資産の種類及び価額

現金預金 350,000千人民元